

検討テーマ：「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●：市長の発言)

	課題	方策
防災訓練	<p>○避難所訓練を行ったかどうか。</p> <p>○避難所の図上訓練を実施した。勉強、検討しなければいけない事が多々ある。</p> <p>○実際に地区と行政で防災訓練を行うことも必要ではないか。</p> <p>■保健委員を中心とした、担架・三角巾等を使用した救護訓練が今後の課題。</p>	<p>●危機管理課で検討する。</p>
避難所の体制	<p>○地区の非常用食糧、水、医療品、プロパンガス使用場所等を把握したい。</p> <p>○職員不在時の鍵の問題、ヘリコプターの発着や、坂小への医者手配等の指示を誰がやるのか指揮系統を把握する必要がある。</p> <p>○避難所の暑さ・寒さ対策も重要。冬場は毛布不足が懸念される。</p> <p>○けが人が保健室に来ることが想定されるが、応急処置用の医療品は学校に無い。</p> <p>■冬場は暖をどうやってとったらいいか。</p>	<p>○グラウンドに車を入れない等、災害時の約束事を作りたい。</p> <p>●避難所の指揮命令系統に関しては、各町内責任者と避難所運営の具体的な話し合いをしてほしい。</p> <p>○市山公民館を避難所として使えるよう非常食、毛布、浄水器等揃え始めた。</p> <p>○元山中自治会では、避難生活は出来れば町内の公民館を利用したい。</p>
地域の連携と防災	<p>○三島は大火が懸念される。坂地区は山火事の可能性があるので初期消火が大事。</p> <p>○災害時の連絡方法は話し合っていない。</p> <p>○情報収集と情報発信をどのようにするか、具体的、実践的に知りたい。</p> <p>■災害時に電気が停止し広報が使えない場合、他に使用できるものがあれば離れた地域をいちいち回らないで済む。</p> <p>■坂小学校から遠い地区との連絡方法課題。</p> <p>■学区外から通園・通学している場合、親はすぐに子どもを引き取りに行けず、預かってもらえるか不安。学区外の方にも災害時の具体的な流れがわかる物があるといい。</p>	<p>○小学校と幼稚園は合同訓練を実施。</p> <p>●171の伝言ダイヤルを確認する。市からは同報無線、FM三島ボイスキューで情報伝達する。</p> <p>○各地区長と携帯電話等で連絡しあい、情報収集できるようにしたい。</p> <p>○災害発生時大事なことは自助。自分が助からないと、他を助けることは出来ない。</p> <p>○圧死しないため家具の固定、消火器の設置を全戸で実施してほしい。</p>
高齢者支援	<p>○箱根坂は8割が60歳以上の高齢化地区。</p> <p>○坂地区は高齢者が多い。高齢者や災害弱者をどう救助・搬送するかが課題。</p>	<p>○毎月訓練を行うことで操作を忘れない。</p> <p>○地域と密に連携をとり防災訓練、地域の人を守る練習などを実施し、若者不在を地区の皆がカバーしている。</p>

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●：市長の発言)

	当面の取組み	取組みの担い手／アイデア
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">防災訓練・避難所の体制</p>	<p>○避難所ルールづくり</p> <p>○医療品・食料・水の確保</p> <p>■山中部落が一番上にあり、災害時国道1号線が閉ざされる危険があるため、部落独自で対策を練る必要がある。特に消火訓練は綿密に実施。</p> <p>■来年以降、救急・AEDの操作方法・避難所への搬送訓練、社会保険病院へのルートを含めた怪我人運搬訓練を実施したい。</p> <p>■チェンブロックや低床ジャッキを使用したがれきの下じきからの救出訓練や、棒2本と毛布やビニールシートで担架を作成し、実際に運搬訓練を実施。</p> <p>■備蓄倉庫にある備蓄品の情報を共有した。一日分もつかわからない。</p> <p>■もっと意識を高めていかなければならないと痛感した。今後は防災訓練でも保健委員の役割があるといいと思う。</p> <p>■三島市内に救急車は4台。怪我人の救助・救護を、病院を頼るのではなくて自分達で実施しなければならない。救急医療品を組ごとに必ず置いておく必要がある。</p> <p>■坂地区は各地区、避難所(小学校)から離れているので、各公民館や集会場に避難し炊き出し等を実施するので、被害が非常に大きい場合、避難所を使用することになる。</p> <p>■坂地区は防火水槽が多い。プロパンガスなので炊き出しも可能。野菜などの材料もある。食べることに生活すること、水についてはあまり困らない。トイレもウンボがあり対応可能。非常に力強い。</p> <p>■災害時、国道1号線上に取り残された車両からの避難者や、ヘリコプター発着場である坂小運動場の運用等について、本年度中に第二回避難所運営会議を開催し話し合っていきたい。</p>	<p>○防災会議で検討</p> <p>●市で避難所運営マニュアルを現在作成中。</p> <p>■高齢者が多い地区のため、災害時の対応を身体で覚えるよう毎月訓練実施。8月の防災訓練は、日ごろの訓練の発表会のようなもので、各組が時間を競い真剣に消火する。</p> <p>●坂は色々な道具がある。建物からの救出はチェーンソーや車のジャッキが有効。それらを使用した救出訓練を考えてみてほしい。</p> <p>■防災意識を高めるため、最低3日分の備蓄例が描かれた絵を各家庭に配布した。</p> <p>●防災訓練時に保健委員の役割があると活動の幅が広がる。</p> <p>●包帯、三角巾、消毒薬など、自主防災会で備えておく。保健委員や女性陣と救護について話し合っておいてほしい。</p>

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●：市長の発言)

	当面の取組み	取組みの担い手／アイデア
地域の連携と防災	<p>○災害時の情報共有、連絡方法の検討。</p> <p>■防災無線もいいのだが、地区の連絡は普段広報を使用する。広報が一番注意深く聞いてくれる。</p> <p>■災害は伊豆大島のように土砂災害の場合もある。連絡や避難のタイミングがたいへん難しい。</p> <p>■家庭で災害時の対応は話し合っていない。家族間で災害時の連絡方法を話し合うよう周知していきたい。</p> <p>■小学校と幼稚園は運動会や防災訓練を一緒に行うなど連携がとれている。幼稚園で迎えに来られない子がいた場合には、合同で学校校舎の一部屋で防災用に備蓄している毛布があるので、(避難所の総合責任者の了承を得て)毛布を分けて学校で寄り添っていようと検討。</p>	<p>●水害や山・がけ崩れの場合、該当地区へ避難準備の連絡⇒地区で避難体制を整える⇒避難勧告、避難指示と進む。山・がけ崩れの場合、避難できる体制をつくっておき、危険だと感じたら逃げてもらうしかない。</p> <p>●今年、西小、錦田小では体育館での防災キャンプを実施。北小はPTA主催で防災学習会を実施。保護者が防災の情報を知り話し合うことが、防災意識の向上につながる。</p>
高齢者の支援	<p>○要援護者の把握。</p> <p>○黄色いハンカチ、笛を用いた訓練を実施。</p> <p>○要援護者の搬送方法(担架)を訓練で実施。</p> <p>■運動会がないので防災訓練が多くの高齢者に身体を動かしてもらう機会になる。</p> <p>■個人情報本人の利益になることは公開しても問題ないという見解もある。要援護者リストを活用してほしい。</p> <p>■要援護者リスト作成は、民生委員が一生懸命協力した。取りに来ない町内があることはたいへん不満。市で渡しに行くなどの対策を求める人もいる。</p>	<p>■箱根坂は現在要援護者の該当者はいない。これから動けない方が出てくると思うので、そういった場合の対応(担架等で避難所に運搬)を申し合わせてある。</p> <p>●自主防災会で要援護者をどう救助するか話し合っしてほしい。要援護者の救助は元気な高齢者も加わって救助隊活動をしている芙蓉台、富田町、大社町の取組みが参考になる。</p> <p>●働きに出ている方の安否が心配な地区。困った人が相談できる体制を作っておいてほしい。</p> <p>●自分たちの地域は自分たちで守るという意識を持ってもらうため、自主的に取りに来てもらっている。</p>